

# 第1章 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
<b>(1) 文学部の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a	◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	文学部の教育理念は学則別表9に、「究極的には人間そのものを総合的に理解することを目的」としている。これを踏まえ、学位授与方針を定め、その中において確固とした専門知識の習得を不可欠の前提としながらも、その専門分野のみに偏ることのない広い視野に立ち、公正かつ確かな判断を下すことのできる人材の育成を目標として掲げている。また学部だけではなく、各学科・各専攻および資格課程でも、教育理念・目標を設けている(資料1-7)。 そして、これら学部の理念・目的は、学科ごとに学則別表9に人材養成その他の教育研究上の目的として定められている。 文学科は、「ことば」に関わる文化の問題に大きな関心を寄せ、知識の断片を総合的なものへと体系化させ、自らのメッセージとして広く世界に向けて発信できる学生を育てることを目標としている。 史学地理学科は、世界各地に関する歴史的・地理的認識を深めると共に、人間社会を多角的に把握する思考力を養い、創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を目的とする。 心理社会学科は、人間の「心と社会の問題」の探求を本旨とし、「生きやすい社会」のあり方を求めて、共生する社会を模索しつつ、「心」を個人の内的問題としてではなく、病理を生み出す「社会」の関わりで思考し、新しい時代に対応できる人材の育成を目的とする。これら基本理念、目指すべき人材像、目的は、学校教育法第83条に規定された大学の目的に関する事項を踏まえ、適切に設定させている。				資料1-1 学部ホームページ概要—文学部とは (http://www.meji.ac.jp/bungaku/outline/gaiyou.html) 資料1-2 2013年度学部ガイド3頁 資料1-3 2012年度学部便覧7-8頁 資料1-7 学則別表9(学部便覧共通事項91頁)
b	●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	事物の本質を客観的に判断できる能力を培い、それらを積極的に自らのメッセージとして、広く世界へと発信できる学生の育成を目的としている(資料1-7)。				資料1-7 学則別表9(学部便覧共通事項91頁)
<b>(2) 文学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	これら理念・目的は、教職員については、学部便覧(資料1-3)およびホームページ(資料1-5)により周知している。また、受験生を含む社会一般に対する公表として、ホームページのほか、大学ガイドブック(資料1-2)、学部ガイドブック、また進学相談会やオープンキャンパスなどのイベントを通じて情報を公開している。学生にはガイダンスにおいて指導して、周知・徹底を図っている(資料1-7)。				資料1-4 2013年度学部ガイド7-32頁 資料1-5 学部ホームページ「学部概要」 (http://www.meji.ac.jp/bungaku/outline/gaiyou.html)
<b>(3) 文学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念・目的の適切性の検証について、毎年度、「教育・研究に関する長期・中期計画書」の作成時に、社会情勢や学生の学修実態に即して見直しを行っている。人材養成その他の教育研究上の目的については学則別表の改正事案として、教務部委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。				

第3章 教員・教員組織							
点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 文学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>							
a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	文学部の求める教員像は、大学が定める「教員任用計画の基本方針」に基づき、人材育成や研究遂行に必要な学識、教育研究業績、社会的活動実績を備え、学校教育法第92条及び大学設置基準第4章に規定される教員の資格を満たしたうえで、教育理念として「十分な専門知識を備えた幅広い教養人の育成」を掲げており、その目標達成に貢献し得る教員が求められている。 教員と教員組織の編制方針は、「2013年度教育・研究に関する長期・中期計画書」（資料3-1）において次のように明示している。①教員の募集・任免・昇格において、個別案件ごとに人事選考委員会を設置して、科目適合性を教育・研究両面において厳正・公正に審査し、かつ透明性を保証する。②主要授業科目に専任教員を配置し、適材適所に務める。科目教育においては、その性格に応じた人的補助体制を整備するとともに、教員・職員間の連携を高めてその点検、整備を常時行う。③適正な専任・兼任率、年齢構成を実現する。④教員間の教育・研究面での相互チェックならびに啓発を行えるような制度環境を実現する。⑤実務家型教員の配置を行うことで、教育・研究面での充実を図る。⑥外国人研究者・海外で学位を取得した日本人研究者を積極的に受け入れ、教育・研究面での国際性を強化する。⑦教員の適正なジェンダー・バランスを実現する。					資料3-1 2013年度教育・研究に関する長期・中期計画書(文学部)
b	◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	教員の募集・任用・昇格にあたっては、文学部教授会が「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」（資料3-2）を定め、明文化している。これは、文学部が教員に求める専門的能力、業績、教育的能力、資質を明確にしたものであり、その運用は「採用人事選考委員会についての運用細則」（資料3-3）によって厳正に行われている。					資料3-2 文学部における教員の任用及び昇格審査基準 資料3-3 採用人事選考委員会についての運用細則
c	◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	文学部は、専攻にかかる専門教育部門、学科専攻横断的・基盤的な教養教育部門、そして資格課程にかかる教育部門の大きく3部門から成り立っている。これら3分野について、専門教育を行う教員が基礎・教養教育にも携わり、基礎教育と専門教育の連携に努めている。各専攻の専門性と関連の強い基礎教育に関しては専攻・学科の独自性を尊重している。 学部全体の体制としては、学部設置された「教務課題検討委員会」「人事計画委員会」がこれら諸問題の検討を行い、選挙によって任命された学部長を筆頭責任者として、各学科長および教務主任によって構成される役職会において審議され、最終的には教授会の承認を得ることで責任体制を明確にしている。専任教員全員（特任、客員、助教は除く）をメンバーとする文学部教授会のもとには役職会メンバーおよび各専攻・セクション責任者で構成される学部運営協議会が設置され、さらに常設の委員会として人事計画委員会、教務課題検討委員会、入試制度検討委員会、弘報委員会、国際交流委員会、自己点検・評価委員会、キャンパスハラスメント防止委員会が活動している（資料3-4）。					資料3-4 文学部各種委員会名簿

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						Alt+Enterで簡条書きに	
<b>(2) 文学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>							
<b>教員の編成方針に沿った教員組織の整備</b>							
a	◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】	文学部の設置基準上必要教員数は56名であり、2013年5月1日現在の専任教員数(教授・准教授・専任講師・助教。資格課程所属教員を除く)は100名で、大学設置基準上の必要数を満たしている。また助手は22名である。教員一人あたり学生数は、収容定員ベースでは収容定員2950名に対して29.5名、学生現員ベースでは学生数3453名(2013年5月1日現在)に対して34.5名である(資料3-5)。これは他学部と比較して少なく、少人数による実践教育を重視する文学部の基本理念に合うものである。 教員組織のバランスについては、専任教員の平均年齢は52歳でやや高いが(資料3-6)、2013年度に30歳代6名、40歳代3名を任用し、年齢バランスの大きな偏りは解消されつつある。若手の教員採用に加えて、本学で博士号を取得した若手研究者を任期制で採用する助教制度が2010年度から運用開始され、2011年度2名、2012年度2名、2013年度1名が採用された。また国際化の推進のため、外国人教員や海外で学位取得した日本人教員の任用を進めており、2013年5月1日現在、外国人教員は3名、海外で学位取得した日本人教員は7名である。新規採用においてはジェンダー差別のないよう徹底した公正化が図られており、前年度と比較して女性専任教員は1名増加し、文学部全専任教員に占める女性の割合は25名(22%)となった(資料3-7)。 本学部では学内付属機関の教員組織と連携した教育も行っている。考古学専攻では専攻所属教員5名の他、学芸員養成課程担当教員2名、本学黒曜石研究センター特任教員1名、本学博物館学芸員2名が各所属組織の特性を活かしながら「考古学研究法」「考古学実習」等の少人数教育を指導しており、学芸員養成と研究者養成等に強みを発揮できる体制となっている。		一部の専攻では40歳以下の若手教員が少なく、年齢構成の偏りが見られる点は改善を要する。また、学科によって女性の専任教員数に偏りがみられる(文学科15名、史学地理学科3名、心理社会学科3名、教養2名、資格課程2名)ことも改善を要する。		文学部の各学科・専攻の専門的多様性を維持し、かつ教育の質を高めるために、専任教員の年齢分布にやや偏りがあるのでその改善を図っていく。また、専攻間におけるジェンダーバランスを考えていく。	資料3-5 明大データ表3-5 「教員一人当たり学生数推移表」 資料3-6 明大データ表3-2 「専任教員年齢構成」 資料3-7 明大データ表3-6 「外国人教員、女性教員の状況」
b	◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600~800字】	資格別担当授業時間数は平均で教授13.4時間、准教授13.3時間、専任講師11.5時間、助教4.0時間である(資料3-8)。学部開設科目に占める専任教員の担当科目の比率(専兼比率)は、専任教員112名が41.1%(576コマ)を担当し、兼任講師339名が58.9%(824コマ)の科目を担当している(資料3-9)。専攻必修科目の多くを専任教員が担当する一方(64.3%)、自由選択科目では兼任講師による多様な講義が行われている(60.0%)。兼任率の高さは各専攻の専門性と広汎性の重視によって必然的に科目数が多くなることに帰因している。 年齢やジェンダー、エスニシティのバランスの是正には継続して取り組んでいる。女性専任教員は25名、専任教員における女性比率は22%、兼任教員では339名中120名(35%)、助手では22名中6名(27%)である。国際交流を推進する方針から、外国人の専任教員は3名、海外で学位を取得した日本人専任教員は7名、外国人兼任教員は21名であり、2013年度は外国の客員教授を1名増員した。 実務経験を重視して採用されたいわゆる実務家型教員は、資格課程のうち教職部門に1名いるほか、教養課程の教員1名と心理社会学科臨床心理学専攻の全教員(6名)あわせて7名は臨床心理士の資格をもち、カウンセリング業務も行う実務家型の側面を併せ持っている。	臨床心理学専攻では実務経験重視の方針に基づき、臨床心理士の有資格者を採用してきた結果、講義だけではなく実地見学や症例研究等の実践的教育が行われ、臨床心理士を目指す大学院進学希望者も増えている。				資料3-8 明大データ表3-3 「専任教員の担当授業時間」 資料3-9 明大データ表4-1 「開設授業科目における専兼比率」
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>							
c	●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600~800字】	毎年度「教育研究年度計画」において文学部長中期計画を策定している。また、毎年1月に示される「教員任用の基本計画」(資料3-1)に従い、役職者会と人事計画委員会において学部教員任用計画を策定している。「年度計画」の策定にあたっては、将来構想委員会と自己点検・評価委員会の意見を参考として、適切な人事が遂行されるように公正性と透明性に留意しながら教員組織を検証し、その編制方針の見直しを行っている。さらに「学部教員任用計画」の策定にあたっては、人事計画委員会や教務課題検討委員会の議を経て、将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検討し、教員・教員組織の検証を行っている。なお、検証の結果は役職者提案として議題に上がり、教授会において審議される。そこで承認された後に「学部教員任用計画書」として、学長に提出される。					資料3-1 2013年度教育・研究に関する長期・中期計画書 資料3-4 文学部各種委員会名簿

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	大学の教員任用基準に基づき以下を基本とする学部審査基準が制定され、厳密に運用している。 ①専任教員の採用は公募を原則とし、その都度人事選考委員会を設置して選考を行っている。人事選考委員会は当該専攻等2名、他専攻3名の委員からなり、委員会の設置と委員構成は教授会の了承を得なければならない。人事選考委員に他専攻の教員が加わることで厳正な選考が行われ、応募者の研究教育能力や実績が明確化され、複数の委員の協議によって適切に判定し得るようになってきている。なお、専任教員の採用に当たっては明文化された厳格な選考基準(資料3-2, 資料3-3)が適用され、選考にあたっては特に近年(過去5年間)の教育研究能力と実績に重点が置かれている。また、研究業績と科目適合性を審査するほか、提出資料に教育・授業実施計画の提出を求め、さらに面接において当該専攻教員のほかに他専攻の教員が試問に当たることによって、大学教員として相応しい教育能力を備えているか吟味している。 ②昇格人事についても採用人事に順じた委員会を設置して審査している。 ③助手については、公募により選考委員会が面接を行い選考している。 ④兼任教員および客員教授の採用については、各学科において科目適合性と業績等適任性が判断され、最終的に教授会において決定されている。	他の専攻の教員が人事選考に加わり、複数の委員で協議することによって、狭い専門領域だけに偏らない公正で均衡の取れた人材が確保されている。				資料3-2 文学部における教員の任用及び昇格審査基準 資料3-3 採用人事選考委員会についての運用細則
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	社会貢献や社会連携活動の一種である行政などの外部組織の委員就任については、教授会の承認を得ることを要件とし、周知を含めて厳正な取り組みを行っている。また、社会貢献等の諸活動については、毎年大学ホームページ(資料3-10)に専任教員の研究・教育・社会的活動・学会活動などを掲載して透明性を高めている。研究活動では、『芸芸研究』『駿台史学』『心理社会学研究』『心理臨床学研究』への論文発表を奨励し、査読審査を経た上で掲載、公開している(資料3-8)。		教育研究活動の評価は必ずしも十分とは言えず、社会貢献や実務業績の評価、教育貢献の評価指針の明確化が今後の課題である。		教授会およびホームページにおいて積極的に周知させた上で、適切な評価を行う。	資料3-8 本学概況資料集65頁 資料3-10 文学部HP (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/teachingstaff/index.html)
<b>教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性</b>						
b ●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。  (※)社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600~800字】	教育や学生指導に関わる教員の資質向上のために、学生相談の専門家(臨床心理士)や司法の専門家(弁護士)を招いて、「問題ある学生対応のための研修会」「個人情報保護のための研修会」「セクシャルハラスメント防止のための研修会」(資料3-5)を行った。研究に関わる資質向上のために、「科研費申請に関する勉強会」(資料3-6)や研究倫理の理解のための研修会を行った。 社会貢献に関わる教員の資質向上の例として、学生部教員1名が救命技能検定を受けて合格した。高等教育、管理運営に関する教員の資質向上として、国庫助成推進委員会が存在しており、担当委員が学内の研修会の他、全国組織の研修会に参加している。(資料3-8)。また、専任教員の国際交流も非常に活発で、海外の大学・研究機関との学術交流や招聘講演を通じて、海外の大学・研究機関の在り方にも通暁している。 毎年8月末に、役職、各種委員会委員長、教務委員を交えた研修会(文学部研修会出席30名)が開催されている(資料3-7)。					資料3-5 セクシャルハラスメント防止のための研修会 資料3-6 科研費申請に関する勉強会 資料3-8 国庫助成に関する学術講演会等の案内(教学企画室管理文書) 資料3-7 文学部研修会(2012年8月27日)

## 第4章 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に 対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
<b>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。</b>						
a	◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	別表9において「究極的には人間そのものを総合的に理解すること」を教育目標として、さらに「十分な専門知識を備えた、幅広い教養人の育成」を教育方針として明示している。これを踏まえて文学部のDPは「十分な専門知識を備えた幅広い教養人の育成」であり、「人間の生き方」「人間社会の成り立ち」「人間の心と社会の問題」を中心課題に据えながらも、人間の「知性」と「感性」と「実践」の相関を究明し、それらを自らの言葉で発信していく力を養うことを通じて、新しい時代に対応できる創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を目標としている。なお、すべての専攻が1年次からの演習を設定するとともに卒業論文を卒業要件に含めている(資料4-1-1)。				資料4-1-1 明治大学学則別表9「人材養成その他教育上の目的」 資料4-1-2 文学部ホームページ (http://www.meiji.ac.jp/bungakupolicy/02.html)
<b>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。</b>						
a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示す目標を達成するため、教育課程の編成理念や編成方針、特長を明らかにした「教育課程の編成・実施の方針」を2010年9月27日開催の教授会において定めた(資料4-1-3)。文学部では3学科、13専攻においてそれぞれ特色ある教育内容を設定しているが、文学部はおもに文学作品やコミュニケーションを通して、史学地理学科は過去から現在までの歴史を生きた人びとの姿を探求することを通して、心理社会学科は個人の内面と集団としての社会の側から、いずれも社会の主体である人間を多角的に理解することを目的としている。そうした人間理解を実践する力として、専門性と教養の双方の獲得を学生に求めている(資料4-1-4)。また、各専攻はそれぞれの専門領域の特性にもとづく教育方針を設定している(資料4-1-5)。				資料4-1-3 2010年9月27日開催教授会議事録 資料4-1-4 『2013年度文学部便覧』7-8頁、教育課程編成・実施の方針 資料4-1-5 『文学部ガイド2013』3-6頁。
b	●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】	学位授与方針では、十分な専門知識を身に付けた幅広い教養人の育成のためと謳い、教育課程の編成方針ではそれを踏まえて、「人間とは何か」という問題に多角的に取り組むため十分な専門知識と幅広い教養を身に付けることを目的としており、学位授与方針と教育課程の編成実施方針は密接に関連していると判断する。			各専攻の学術領域での専門性ととも、幅広い教養人の育成という目標を保障しうる教育課程の編成を継続的に考慮していく。	
<b>(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員及び学生等)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	文学部ホームページならびに印刷物である学部ガイド、学部便覧、シラバスで学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表している(資料4-1-6、資料4-1-7)。また、毎年4月初旬に1年次と3年次に行われるガイダンスを通じて、学生にも周知徹底を図っている。外部に対しては学部ホームページおよび学部ガイドによる公表のほか、父母説明会や高校説明会、オープンキャンパス等の機会をとらえて周知している(資料4-1-8)。				資料4-1-6 文学部ホームページ (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/index.html) 資料4-1-7 『2013年度文学部便覧』7-8頁。 資料4-1-8 高校説明会資料
<b>(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a	●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するため、現職の教務主任および学部役職(学科長, 教務主任, 学生部委員)の経験者計6名からなる自己点検・評価委員会を設置し、各年度の報告書の作成とともに定期的に理念と現況の整合性を検証し、問題点の改善に努めることで適切性の維持を図っている。2012年は5月7日, 6月5日, 10月16日に委員会が開催された(資料4-1-9)。また, 2013年3月4日開催の教授会において, 学則別表9及び各ポリシーが適切に運用されていることを検証した旨の役職会の提案を承認した(資料4-1-10)。				資料4-1-9 2012年度自己点検・評価委員会議事録 資料4-1-10 2013年3月4日教授会議事録

第4章 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで箇条書きに
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</b>						
<b>必要な授業科目の開設状況</b>						
a ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	文学部は、CPIにおいて「(人間とは何か)」という問題に多角的に取り組むため、十分な専門知識と幅広い教養を身につけることを目指しカリキュラムの編成を行っている。「文学科」には日本文学専攻、英米文学専攻、ドイツ文学専攻、フランス文学専攻、演劇学専攻、文芸メディア専攻を、「史学地理学科」には日本史学専攻、アジア史学専攻、西洋史学専攻、考古学専攻、地理学専攻を、「心理社会学科」には臨床心理学専攻、現代社会学専攻を配置し、この3学科13専攻の学問領域を基本的な履修区分としつつも、総合的な教養力や学生の興味関心や能力に細かく対応し、バランスのとれた授業の配置を行っている。また、1・2年次に「日本の伝統と文化」「こころの科学」「アジアの地域と思想」「国際関係論」、3・4年次に「文化財科学」「生命の政治社会学」「環境歴史」学といったような領域横断的な教養科目も多彩に設置されている。このほか、所属する専攻以外の必修科目であっても、たとえば英米文学専攻の学生が「日本現代史Ⅰ」を、西洋史学専攻の学生が「ドイツ文学講読Ⅰ」を選択科目として履修することができる。このように13専攻の特徴を活用しつつ、専攻横断型の履修によりCPの示す「学生個々のキャリアビジョンに直結した幅広い能動的実践を、人文学という多様な学問の場で行うことができる環境の確保」を実現している(資料4-2-1, 33-92頁)。なお、本学部の卒業に必要な単位は128単位である(資料4-2-2)。本学部の総開設授業科目は1400科目(2012年度)であり、教養共通科目237科目、外国語科目291科目、専門教育科目872科目である。専門科目は演習や講読、卒業論文等からなる専攻必修科目のほか、専攻選択科目、共通科目を設け、学科ごとに目標に応じて必要単位数が定められている(資料4-2-3)					資料4-2-1 文学部便覧33-93頁「(専攻別)必修科目、選択科目」 資料4-2-2 文学部便覧16-19頁、「卒業に必要な単位」 資料4-2-3 明大データ表4-11「学部開設科目」
b ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】	卒業要件単位数128については、学科間の格差や専攻ごとの不統一がないよう、バランスを考慮して配分している。開設科目数の構成は一般教養的授業科目16.9%、外国語科目20.8%、専門教育的科目62.3%であり、専門教育的科目の割合が2/3に達するが、これは本学部の教育の中核が13専攻それぞれの少人数クラスに重点を据えていることと、各専攻がそれぞれの学問分野の特性に応じて多様な選択肢を専攻内に提供しているためであり、全体的には教養教育の充実も十分に考慮されている(資料4-2-19)。共通選択科目を24単位以上必修とすることで、学生の選択の幅を広げ、自らの専攻科目とは異なる領域分野を積極的に学ぶよう学生に課している。また、各専攻が設置した科目のほとんどは、他専攻の学生でも履修可能としている。外国語関係科目やウェルネス科目、情報関係科目、共通選択科目と合わせ、幅広い知識を身につけられるように配慮している。さらに、「日本の伝統と文化」「アジアの地域と思想」など領域横断的な科目も設置されている(資料4-2-2)。そのほか、選択科目として「留学準備講座」を開講し、学部生の海外留学促進に向けて取り組みを開始した。英米文学・ドイツ文学・フランス文学の各専攻はTOEFL(iBT)80以上、独検準1級、仏検準1級をstep4に位置づける目標レベルを示した「ランゲージプログラム」を設けており、さらに他専攻の学生の履修を可能としている(資料4-2-6)。演劇学専攻の学生が主体となり、明治大学シェイクスピアプロジェクトによるシェイクスピア劇上演が毎年実施されているが、他専攻や他学部の学生を交えたプロジェクトを通じ、学んだ教養を現場で実践する場となっている。アジア史専攻および現代社会学専攻は海外ゼミ合宿を実施し、習得した知識の現場性を発揮するとともに、学生間交流を通じて異文化理解の推進に役立てている。	専門科目や必修科目を精選することによって共通(教養)科目や選択科目の幅を広げ、学科や専攻を横断する幅広い教養を形成する機会を提供している。それによって専攻ごとの専門性と広範な知的教養の習得を両立させるといった教育目標を達成している。また、教養科目の配分は余裕を持って設定されており、基礎的教養力を得たうえで4年次に卒業論文に取り組めるように配慮している。	語学科目が、受講生の語学力別ではなく専攻別に編成されているため、特に語学力のある学生を選抜して語学トレーニングを行うことが困難な状況にあるが、2015年度を予定するカリキュラム改訂において改善すべく検討を進めている。			資料4-2-19 文学部便覧33-93頁「学部開設科目」 資料4-2-2 文学部便覧16-19頁「卒業に必要な単位」
<b>順次性のある授業科目の体系的配置(履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など)</b>						
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】	1・2年次には各専攻の専門分野を学ぶ基礎力をつけるための「概説科目」が必修で設置されている。また1年次の「基礎演習」から4年次の「卒業論文」まで、少人数によるゼミナール形式の専門教育を実施し、3年次の演習と4年次の卒業論文は専門教育の中核とし、順次的な科目編成となっている。3・4年次の学生に対しては、自らの関心や課題にあわせて専門知識を高めることができるよう、各専攻ごとに多様な選択科目を設置している(資料4-2-3, 資料4-2-4)。学科・専攻ごとの科目の体系や履修モデルは、便覧(資料4-2-5)、文学部ガイド(資料4-2-6)、ホームページ(資料4-2-7)で図示されている。 (日本文学専攻)1年次に「基礎演習」が設定されており、現代文と漢文も含む古典の読解力を身につけるとともに、演習科目である「日本文学史Ⅰ」や語彙を中心とする「国語学Ⅰ」「作家作品研究Ⅰ」「中国文学研究Ⅰ」を2年次までの必修としている。日本文学演習は2年次から必修となっており、興味のある時代の文学への探求を強める一方、3年次においても講義科目は必修となっており、日本文学に対する総合的知識を獲得していく。 (英米文学専攻)英語科目では1・2年次に「基礎演習」および「英語(会話・作文)」「英語(会話・作文)」「英語(講読)」「英語演習」で読む・書く・話す・聞くの基礎的能力を集中して鍛え、3年次以降はそれらのブラッシュアップに努める。専門科目は英文学・米文学・英語学の3分野からなり、1・2年次の専門基礎科目で専門分野の基礎を学習するとともに文学作品の基本的な読解力を得る。3・4年次では、英文学・米文学においては「作家作品研究」「文学講読」「劇作家作品研究」「文化研究」「異文化理解ⅠⅡ」などをとおしてさらに深く学習する。英語学においては2年次に「音声学」「統語論」「意味論」で英語学の核となる分野の基礎を学習し、3・4年次ではさらに「言語学」「文学理論」などで英語学に関する知識を深め、3・4年次には「文学演習」で専門分野の知識を応用する機会を得る。	科目区分と必要単位数、各学年ごとの履修単位数の上限を図表で示し、履修モデルを明示することで、学生がわかりやすく履修計画を立てられるようになっている。				資料4-2-3 2013年明治大学ガイドブック81-94頁「各専攻カリキュラム体系図」 資料4-2-4 大学ホームページ「カリキュラム概要」 (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/curriculum.html) 資料4-2-5 便覧33-76「科目担当表及び履修上の留意点」 資料4-2-6 2014文学部ガイド5-6頁「学科・専攻案内」 資料4-2-7 大学HP「学部のカリキュラム概要・履修モデル・主要科目の紹介」

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【改善を要する点に対する発展計画】		
				【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p><b>C列の点検項目について、必ず記述してください</b></p>					<p>Alt+Enterで箇条書きに</p>
	<p>らに高度な英語学を学んでいく。専門演習については2年次・3年次に「英米文学演習」があり、英文学・米文学・英語学について少人数ゼミナール形式で学び、卒業論文へとつなげていく。                  (ドイツ文学専攻) ドイツ語科目は1年次から週2回の文法・リーディングを通じて基礎から学ぶ。専門科目はドイツ語力養成科目、文化関連科目、ドイツ語関連科目の3分野からなり、それぞれの基礎力を身につけたうえで、3年次に設けられた卒論予備ゼミで知識を発展させていく。                  (フランス文学専攻) 1年次にフランス語の基礎能力を身につけると共に、フランスの文化や文学についての基本知識を学ぶ。2年次以降は、語学能力や研究能力をさらに磨いていくと同時に、それぞれの興味や目標に合わせ、①「フランス語運用能力を高める」、②「フランス語の仕組みを学ぶ」、③「フランスやフランス語圏の文化や社会を学ぶ」、④「フランスの文学や思想を学ぶ」という4つのコースを中心に、カリキュラムを組んでいく。                  (演劇学専攻) 1年次に「基礎演習」を通じて演劇学の基礎を学ぶ。2年次からは「演劇学演習」で専門性を高めていく。また、必修の講義科目である「演劇概論」「日本演劇史」「西洋演劇史」「戯曲作品研究」を通じ、幅広いジャンルの知識を身につけていく。                  (文芸メディア専攻) 1年次は「文芸メディア概論」で文芸メディアのとらえ方を学び、「基礎演習」で〈読み〉の実際と研究方法を、「表現・創作I」で文章表現の基礎と〈表現〉の諸相を身につける。2年次からは「文芸メディア演習」を軸に研究を進め、各自のテーマに沿って視野を広げていく。また、「テキスト研究」および「テキスト講読」を通じ、〈読み〉の力を高度化させていく。                  (日本史学専攻) 1年次では「基礎演習」を通じて研究の基礎的方法を学習し、「史学概論」および「日本史概論」で通史的な理解を身につける。2年時では「史料演習」を通じて史料の利用方法や読解力を学び、「文献講読」によって研究史の知識や学術論文を読む力を養う。研究の基礎的能力と通史的な理解を獲得したうえで、3年時の「演習I」で専門とする時代や分野を確定し、卒業論文へとつなげていく。                  (アジア史学専攻) 1年次は「基礎演習」で歴史文献の読み方を学び、「史学概論」で歴史学の基礎を、「アジア史概論」で通史を学習する。2年次の「史料演習」で中国語・漢文あるいはイスラムに関する英語文献を読み、歴史文献の読解力を高める。3年次の「文献講読」では外国語文献の読解力をさらに強化し、「演習I」で専門分野の研究を進め、卒業論文へとつなげていく。                  (西洋史学専攻) 1年次は「史学概論」で歴史学の基礎を、「西洋史概論」で通史を学習する。また、「基礎演習」で研究の基礎を学び、「原書講読」で英語文献を読む能力を高める。2年次の「史料演習」で、外国語文献の読解力をさらに発展させ、3年次の「演習I」で専門分野について研究を進め、卒業論文へとつなげていく。                  (考古学専攻) 1年次の「基礎演習」では調査報告書や資料集成等の考古学的文献に触れ、学問の「思考法」を身につける。2年次の「考古学研究法」では明治大学考古学博物館所蔵の日本考古学を代表する資料に実際に触れながら、考古資料の観察分析記録法を体得する。講義科目としては1年次必修「考古学概論」の他、2～4年次では旧石器から歴史時代に至る各時代やオリエント、ヨーロッパ等の各地域の考古学専門科目が設置されている。選択科目であるもののほぼ全ての学生が履修する「考古学実習IⅡ」は遺跡踏査の他、出土した資料の整理、実測、製図等、報告書作成にかかる一連の作業を実地に学び卒業論文に結びつける科目で、この専攻の特色である。こうしたカリキュラムを編成するために、現在、旧石器、縄文、弥生、古墳時代を対象とする「4つの遺跡調査団」を稼働させており、3年次の「考古学実習」では、この4つのうち自分の関心のある調査に恒常的に参加することで、単位が与えられる。                  (地理学専攻) 1・2年次には人文地理学、自然地理学、地誌学の入門科目や方法論に関する科目が置かれ、「基礎演習」により地理学の研究に基本的な知識と方法について学習する。また、「地理学実習I」(日帰り～1泊2日実習数回)を実施し、フィールドワークの基礎力を養成する。3年次になると専門は人文分野と自然分野に分かれ、小人数で進められる「演習」と「地理学実習Ⅱ」(3泊4日)を中心に、各専門領域に関する学習ならびに共同研究を行う。4年次には、各自個人研究を行い、その成果により「卒業論文」を作成する。                  (臨床心理学専攻) 1年次は「心理社会研究基礎演習I」で研究の基礎を学び、「心理社会研究入門」により人間に関する心理学的な見方の基礎を養う。2年次は「心理社会研究基礎演習Ⅱ」および「心理社会調査研究法」で研究の方法論を学ぶとともに、選択講義科目である「カウンセリング論」などの履修により、臨床実践の基礎知識を習得する。3年次では「臨床心理学演習」「臨床心理学実習」など体験的科目を通じて臨床心理の技法を習得し、独自のテーマを策定して4年次の卒業論文へとつなげていく。                  (現代社会学専攻) 1年次は「心理社会研究基礎演習I」で研究の基礎を学び、「心理社会研究入門」により現代社会と人間に関する基礎的な見方を養う。2年次は「心理社会研究基礎演習Ⅱ」および「心理社会調査研究法」により社会学の分析視覚や調査方法論を学ぶとともに、「環境社会学」や「情報社会学」を履修して現代社会の諸問題を考察する。3年次は「現代社会学演習」および「現代社会学実習」で社会学の文献研究と実習を通じて現代社会に関する専門知識を深め、4年次の卒業論文へとつなげていく。</p>					<p>介] (http://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/class/02.html)</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p><b>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</b></p>						
d	<p>●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか</p>	<p>教養教育と専門教育のバランスや教養教育の内容に関する中短期的な課題については、「教務課題検討委員会」において協議され、2012年度は卒業論文および3年次演習の半期化実施について導入を検討し、2014年度導入について全学部的な意思の統一が図られた（資料4-2-8）。カリキュラムの見直しなどの長期的課題については、新カリキュラム大綱（2007年12月10日教授会承認）を基本構想とし、2年次から駿河台校舎での授業開講を前提に検討が進んできたが（資料4-2-9）、教室事情等で再検討を余儀なくされた。その後、2015年のカリキュラム改訂を見据えて2011年度より学部に「カリキュラム検討委員会」が設置された。2012年度の「カリキュラム検討委員会」は6回開かれ、共通選択科目のジャンル分けによる再構築（資料4-2-10）、外国語単位数の拡大、進路支援講座の授業科目化等が議論され、2013年度中には新たな大綱を策定することとなっている（資料4-2-11）。なお、新カリキュラム案については全専攻に意見聴取を行い、それを集約しているところである（資料4-2-12）。</p>	<p>より効率的かつ有効な教育課程の将来像が検証を通じて明確化しつつある。</p>		<p>委員会における綿密な検討と全学部的意思統一のもとで、積極的に教育課程を再編強化していく。</p>	<p>資料4-2-8 2012年度教務課題検討委員会議事録 資料4-2-9 2007年12月10日教授会議事録 資料4-2-10 共通選択科目2015年改定案（2012年12月10日） 資料4-2-11 2012年度カリキュラム検討委員会議事録 資料4-2-12 2015年度新カリキュラムに関する回答（2012年9月28日作成）</p>
<p><b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</b></p>						
<p><b>教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）</b></p>						
a	<p>◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【1200字程度】 ※教育の内容そのもので、しっかりと説明願います。</p>	<p>教育内容の概要については大学ガイド、学部ガイド、学部ホームページで公表している。より詳細な内容はoh-Meijiポータルサイトおよびシラバス冊子、便覧に記載されている（資料4-2-13、資料4-2-14）。なお、シラバスのウェブ化により、授業内容の確認が簡便になった。授業科目は学科・専攻ごとに必修科目と選択科目に区分されて設置され、年次に応じて授業科目が配当されている。専門教育に関しては1年次に全専攻が基礎演習を必修科目として設置し、研究調査やプレゼン、討論のスキルを習得させている。2年次については専攻の特色に応じて原書講読、史料演習、文献講読などの演習科目が設定され、専門分野の必須の研究方法を習熟させている。3年次に演習・実習で本格的な研究指導を行い、4年次の卒業論文で研究成果を集約させ、学位授与の第一条件としている。また、史学概論や国語学などの専攻必修科目、外国語科目、ウェルネス科目を必修としている。このほか専攻選択科目12単位、共通選択科目24単位を全学科が卒業要件に含めており、他学部履修科目等と合わせて特定領域に偏らない幅広い教養の確立に導いている。なお、基礎教養の十分な習得を重視し、2年次終了時に卒業要件に必要な科目を40単位修得しないと3年次進級を認めない（資料4-2-15）。このほか、政策経費にもとづき語学関連の各種検定試験を受験料の助成により行うほか、海外ゼミ合宿や博物館見学も実施している。専攻別に「教えている内容」は以下のとおりである。 （日本文学専攻）日本文学専攻は、現代を重視する立場に立ちながら、古典から近現代までを視野に入れた日本文学の研究を行うことと、世界の文学という広い視野から日本文学の特徴を考えてゆくことを重視している。そして『万葉集』など上古から現代にいたる文学作品のほか、日本の文学に強い影響を与えた中国文学を学ぶための「中国文学研究」や日本語の構造を理解する「国語学」を設置し、バランスのとれた知識を習得したうえで専門の研究ができるように導いている。 （英米文学専攻）英米文学専攻は1～4年次を通して、英語の4技能（スピーキング・リスニング・ライティング・リーディング）の運用能力の向上を目的としたクラスを数多く用意している。その中でも、発信型英語力の養成には特に重点を置いており、スピーキング・ライティングが体系的・段階的に学習ができるようになっており、「Public Speaking」など、そのほとんどのクラスがネイティブ・スピーカーの教員が担当している。また「上級英語Ⅰ」でのリスニング学習はTOEICなどの資格試験対策も視野に入れている。 （ドイツ文学専攻）ドイツ文学専攻は、ドイツ語のインテンシブな学習を希望する学生には「ドイツ語演習」などドイツ語力養成を中心とした科目を設置しているが、「ドイツ文化演習」や「異文化理解」などドイツ語圏の文学や文化を中心とした分野にも重点を置いており、言葉と文学・文化のバランスの取れた学習を可能としている。</p>	<p>学年次ごとに専門性が高度化するように科目群が設置されており、卒業論文作成に必要な専門領域の知見と幅広い教養が段階的に効率よく配当されている。また、語学検定試験受験を奨励しているためであろうか、学部生の平均的語学力がアップしてきている。</p>			<p>資料4-2-13 文学部ホームページ カリキュラム（http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/curriculum.html） 資料4-2-14 Oh-o!Meijiシステム「クラスウェブシステム」について（チラシ）（教育の情報化推進本部会議資料） 資料4-2-15 文学部便覧14～25頁「履修」</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【改善を要する点に対する発展計画】		
				【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p><b>C列の点検項目について、必ず記述してください</b></p>					Alt+Enterで箇条書きに
	<p>(フランス文学専攻) フランス文学専攻は、基礎から上級、特別資格にいたる「フランス語講読」「フランス語会話」を設置し、実用的な語学力を身につけさせているが、さらに「フランス文学研究」「フランス史」「現代フランス研究」などフランス文化全体を理解する科目が用意されている。</p> <p>(演劇学専攻) 演劇学専攻は、人間の文化としての演劇の本質を、日本および外国のさまざまな演劇について歴史的、理論的に探究している。そして、上演台本としての戯曲、舞台装置、衣装、俳優の演技など多様な面から演劇を理解させるため、「舞台芸術研究」や「劇場運営論」、「映画論」、「舞踏学」など豊富なジャンルの科目を設定している。</p> <p>(文芸メディア専攻) 文芸メディア専攻は、多様なメディアの修辞や文法に習熟することと同時に、新しいメディア環境の中で文章表現によって自己を実現していく「表現主体」を育てることをめざしている。そして、「読み」と「創作」とどまらず「現代文化論」「批評理論」「パフォーマンス研究」など多様な選択科目を通じ、文字と人間の連関を多角的に理解できるように導いている。</p> <p>(日本史学専攻) 日本史学専攻は、2年次の「史料演習」および「文献講読」を通じ、自分の目で史料や先行研究を分析する能力を習得させ、実証的で斬新な研究視覚を構築するように指導している。古代から現代にいたるまで全時代を専任教員がカバーしており、3年時の「演習」において学生が学ぼうとする専門分野の選択を多様化させている。また、女性史や非文字史料の利用など新しい研究領域についても「日本史特設」や「日本史特殊史料研究」を設定している。</p> <p>(アジア史専攻) アジア史専攻は、中国の古代・中世史から近現代史のみならず、朝鮮・韓国史からイスラム・トルコ史、モンゴル帝国史と幅広い時代・地域をカバーしているが、文献・史料の読解力に重点を置き、2年次の「史料演習」、3年次の「文献講読」により、外国語(中国語、漢文、英語)の読解力を養っている。そのうえで、「演習」でテーマを各自が選択し、卒業論文の作成に導いている。また、複数のゼミが中国での海外合宿を行い、知識の現場性を高めている。</p> <p>(西洋史学専攻) 西洋史学専攻は、基本的な歴史研究の方法論から始め、徐々にその国の言語を学び、文献を読み解いて欧米諸国への理解を深める教育を行っている。異文化理解のためには言語は不可欠であり、1年次に「原書講読」を設置し、さらに2年次の「史料演習」で外国語史料の読解力を高めて基礎的な知識を習得させようとして、3年次の「演習」で専門分野を多様なジャンルから選択できるように導いている。</p> <p>(考古学専攻) 考古学専攻の対象は「人類の過去」であり、遺跡で検出された遺物・遺構や諸データから人類史を復元することを目的に教育を行っている。そのため、考古学の基礎的研究法の修得を重視し、発掘、整理、実測、製図、報告書作成等を演習科目、実習科目で修得し、卒業論文で統合を図る。文献登場以後の時代の研究を行うために「古代史と考古学」、さらに理化学的な分析手法を含めた研究も行われているため「自然科学と考古学」を設置している。「考古学実習」のフィールドを確保するため、現在、考古学専攻として群馬県武井遺跡群(旧石器時代)、千葉県曲輪ノ内貝塚(縄文時代)、長野県大室古墳群(古墳時代)等の調査団を編成しており、学部学生は「考古学実習」を履修することで、これら調査団に参加し、研究法を体得することができる。</p> <p>(地理学専攻) 地理学専攻では人文地理学、自然地理学、地誌学の概論を必修科目とし、地理学を総合的に把握できるようにしている。また、都市、地方、山岳と多様な地点での「地理学実習」を必修とし、フィールドワークを通じて「現場」でいろいろな問題性を観察し、様々な角度から考え、議論を重ねる中で地理学的な素養を深めていくことができるようにプログラムされている。</p> <p>(臨床心理学専攻) 臨床心理学専攻では、心理学全般についての学習と臨床心理学の専門的な学習をすることができるように科目が設定されているが、臨床心理学の実践に繋がるさまざまな体験学習を重視している。1年次と2年次では「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」で心理学全般、人間と社会の関係について学び、そうした基礎力のうえに3年次にカウンセリングなどの「臨床心理学実習」を設定し、専門性を確保できるようにしている。</p> <p>(現代社会学専攻) 現代社会学は、市民運動や市民活動の現場に触れながら実践的に社会学をしようとする学問領域で、1年次と2年次に必修の「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」、専攻選択科目の「市民活動論」や「環境社会学」などで基礎的知識を習得したうえで、3年次の「現代社会学実習」でフィールド調査や体験学習により現場から学び、さらに「ソーシャルワーク論」や「ジェンダー論」などより専門性の高い選択科目を通じて現代社会の知識を深められるように科目が設定されている。また、複数のゼミが韓国で海外ゼミ合宿を行い、異文化体験や学生間の対話を行っている。</p>					

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p style="text-align: center;">G列の点検項目について、必ず記述してください</p>							
<p><b>特色ある教育プログラムの内容とその効果(当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など)</b></p>							
b	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p>	<p>文学部独自の特色ある教育プログラムは、現時点では設置していないが、学習意欲旺盛な学生に対して大学院設置科目の履修を認め、8単位を上限に卒業要件に含めている。また、16単位を上限に大学院の単位の先取り履修を認めている。このほか、英語教職専修のプログラムなどキャリアデザインプログラムも設定されている(資料4-2-16)。文学部が運営主体となって明治大学連合父母会文学賞を毎年実施し、2012年度は第5回を開催し、倉橋由美子文芸賞、阿久悠作詩賞を授賞した(資料4-2-17)。2010年度より開始された海外ゼミ合宿制度は着実に定着し、2012年度は3件、合計10名の学部生・大学院生がこの制度を利用して、海外学習体験を持った(資料4-2-18)。2012年度より、語学研修も含めた短期留学(融合型プログラム)も認めるようにし、留学の促進を図っている。考古学専攻、地理学専攻、臨床心理学専攻、現代社会学専攻は実習を必修科目に含めており、現場に即した知識の習得を実践している。日本史学専攻は新入生を対象にした明治大学博物館の見学会を実施し、学芸員の解説のもとで古文書を扱う体験を設定している。明治大学シェイクスピアプロジェクトによるシェイクスピア劇上演の企画運営に、演劇学専攻の教員と学生が中心的に参加し、専攻で身に付けた知識を実践の場で活かしている。</p>	<p>学部を設置された科目よりも高度な専門性を習得することができる。海外ゼミ合宿制度は着実に定着している。</p>	<p>政策経費の減額で海外ゼミ合宿への参加学生数の増加に制約が生じている。海外での実体験や学生間交流を維持・拡大するためにも予算額の増大が不可欠である。</p>			<p>資料4-2-16 文学部便覧16-22頁、「大学院設置の授業科目」 資料4-2-17 第5回明治大学連合父母会文学賞 資料4-2-18 海外ゼミ合宿実施報告書</p>
<p><b>学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果(学部間協定、短期海外交流など)</b></p>							
c	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p>	<p>2007年の認証評価において、さらなる国際交流推進の必要性を指摘され、学部内に国際交流委員会を設置して改善を図ってきた。同委員会を中軸に北京師範大学歴史学院、ビーレフェルト大学言語学・文学部、バンベルグ大学人文学部の3大学と協定を締結した。現在も協定校の開拓や海外との学術交流をすすめている。受け入れた外国人学生の学習環境を整える一環として、日本語ライティングチューターの制度を2012年度より発足させ、留学生の日本語レポート執筆などを補助している。</p>		<p>2012年度の交換留学制度による受入数は7名、送出数は6名、単位認定される海外における短期語学研修の参加者は29名にとどまり、国際交流の実績としては物足りないと言わざるを得ない。</p>		<p>国際交流委員会は協定校の開拓や海外との学術交流の促進のための具体的施策の検討を進める。また、特に英語圏の協定校留学において応募者が特定校に集中し、大学の持つ受入枠が効率よく使われていない現状もある。高い語学能力要件にも対応できる語学力向上を含め、留学支援のためのプログラムの構築の検討に着手していく。</p>	

第4章 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>							
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>							
a	<p>◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】</p>	<p>「十分な専門知識を備えた、幅広い教養人の育成」という教育理念に基づき、本学部での専門科目の授業形態は講義、演習、実習、講読などに分かれる。専攻ごとに特性に合わせて設置内容が異なるが、学生数の適正規模を定め、そこから大きく外れないようにクラス数を設定している。特に演習・実習等の少人数クラスは実践教育を核とする文学部の最重要科目であり、適正規模（1クラス20名以下）を確保すべく、クラスの実態に即した適正配分を心がけている（資料4-3-3、資料4-3-4）。</p> <p>（日本文学専攻）上古から現代の文学作品のみならず、日本の文化とも深く関わった漢文や国語学を科目に設定している。</p> <p>（英米文学専攻）「英語」科目と文学、語学教育の調和を図ったカリキュラムが提供され、とくにスピーキングの運用能力に重点が置かれている。</p> <p>（ドイツ文学専攻）ドイツ語能力の養成に加え、「ドイツ文化演習」などドイツ語圏の歴史や文化も科目に含めている。</p> <p>（フランス文学専攻）フランス語能力の養成に加え、「フランス語圏表象文化」や「フランス史」など、多様な異文化を学ぶことを重視して科目が設定されている。</p> <p>（演劇学専攻）幅広い教養人の育成、また学問の実験性の確保のために「観劇」を取り入れている。</p> <p>（文芸メディア専攻）文字と人間との関わりを具体化するため、卒業論文に代えて小説などの卒業制作を認めている。</p> <p>（日本史学専攻）史料を読む能力を育成するとともに、史跡や資料館を対象とするゼミ合宿を通じて現場で歴史を理解する機会を与えている。</p> <p>（アジア史専攻）朝鮮からトルコにいたるアジア全体を視野とする教養と、中国語や英語による外国語文献の読解力育成を重視している。また、海外ゼミ合宿により国際性を高めている。</p> <p>（西洋史学専攻）1年次からの「原書講読」など、外国語文献の読解力育成を重視している。</p> <p>（考古学専攻）教室で得た教養を実践するため、明治大学博物館で遺物を通じて学習するとともに、発掘現場での実習を実施している。</p> <p>（地理学専攻）人文地理、自然地理、地誌の総合的知識を習得するとともに、フィールドワークを実習として設定し、応用力と現場体験を通じて生きた教養を身につけさせている。</p> <p>（臨床心理学専攻）カウンセリングなど実習を通じ、臨床心理学の知識と体験の融合を図っている。</p> <p>（心理社会学専攻）現代社会と人間との関係を現場で学ぶため、フィールドワークによる実習を実施している。</p>	<p>初年度からの演習形式の授業等で学生と教員のコミュニケーションをとりながら、学生の理解度、生活面も含めて指導を行っている。またGPA制度によって卒業までの学生の質を段階的に把握し、成績の思わしくない学生に対しては専攻主任にGPAおよび取得単位数について報告を行い、担当教員が指導・助言を加えるなどフォローに努めている。</p>	<p>基幹科目の少人数制を維持するため、各年度の入学者数に即してクラス数の調節が必要になる。3月末の入学者数決定後、入学者数に即したクラス数の調整作業にあたっているが、少人数制が厳守できない事態が生ずることがある。授業担当者の選択を学生の任意に委ねる演習科目では、少人数クラスの適正人数に適合しない学生数となる場合がある。専任教員数の増員および助教の拡充により、少人数教育の実施が確実に実施できる態勢が望まれる。</p>			<p>資料4-3-1 文学部ホームページ 多様な教養教育 (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/kyouyou.html) 資料4-3-2 文学部ホームページ「1・2年次からの専門教育」 (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/senmon.html) 資料4-3-3 2013年度文学部便覧19-23頁 資料4-3-4 明治大学ガイドブック2013、81頁「カリキュラム体系図」。</p>
b	<p>●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】</p>	<p>英語教育では少人数による徹底指導クラスを設置して、能力のある学生の意欲に応えるようにしている。また、未習外国語等の時間割固定化を推し進め、学生が履修しやすいようにしている。語学については、能力のある学生向けの少人数クラスだけでなく、習熟度の低い学生のための基礎クラスあるいは補習クラスなどの新設が全学的に開始されている（資料4-3-5）。現場性と国際性の確保を重視し、専攻ごとの特色に応じてフィールドワークを実施している。地理学専攻・考古学専攻・現代社会学専攻などは必修科目として校外での実習を実施しているほか、夏期休暇期間などに国内でゼミ合宿を行っている教員も多い。また、海外の大学との交流や実地見学を中心に海外ゼミ合宿も実施されている（資料4-3-6）。</p>					<p>資料4-3-5 文学部ホームページ「文学部の語学教育」 (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/gogaku.html) 資料4-3-6 シラバス（実習科目）</p>
<b>履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</b>							
c	<p>◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。（学部） 【約200字】</p>	<p>年次履修制限単位数は1年次46単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次44単位である。ただし再履修科目については16単位を限度に上限を超えて履修できる。また、3年次進級の条件を40単位以上取得と定めて、検証の時期と段階に区切りを入れている（資料4-3-7）。</p>					<p>資料4-3-7 2013年度文学部便覧15-16頁、「履修方法」</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p><b>C列の点検項目について、必ず記述してください</b></p>					<p>Alt+Enterで箇条書きに</p>
<p>d ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】</p>	<p>履修指導は入学時における総合ガイダンスのほか、専攻別に学年ごとにガイダンスを4月に実施し、履修上の注意事項を周知させている(資料4-3-8)。全学を対象に設置されている学習支援室やTAの配置により、学生の発展意欲の向上や学習上の悩みなどへの相談に対応している(資料4-3-9)。このほか、1年次から少人数ゼミが必修科目として全専攻に配置されており、担当教員により綿密な履修指導がなされている。</p>					<p>資料4-3-8 履修ガイダンス実施要項 資料4-3-9 文学部ホームページ「学習支援室」 (<a href="http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/support.html">http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/support.html</a>)</p>
<p><b>学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援, TAの採用, 授業方法の工夫等)</b></p>						
<p>e ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】</p>	<p>学生の主体的な学びを促す授業方法として、学部全体として、少人数のゼミが主体的な学びの場を提供しており、ゼミ合宿や博物館見学などフィールドでの学習も積極的に行っている。また、演劇学専攻を基盤として明治大学シェークスピアプロジェクトによるシェークスピア劇上演会が毎年実施されている。TAによる卒業論文執筆の支援や史資料解説の指導が授業とは別個になされている。</p>					
<p><b>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</b></p>						
<p>a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること【約300字】</p>	<p>シラバス作成においては、「授業の概要・目的」「授業回数(15回)ごとの授業内容」「履修上の注意点」「教科書・参考書」「評価の基準」を具体的に明記するようにフォーマットを示し、設置基準に基づく内容の充実と統一に努めている。なお、2011年度よりシラバス冊子は事務室での閲覧と教職員の便宜のみに対応して作成し、学生に対してはoh-o!Meiji(資料4-3-10)を通じてパソコン、タブレット、スマートフォンを通じて常に閲覧できるようにした。</p>					<p>資料4-3-10 大学WEBページoh-o!Meijiシステム「シラバス検索」 (<a href="https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index/search">https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index/search</a>)</p>
<p>b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>シラバスと授業内容の整合性については、シラバス作成時に全教員に準拠を求め、具体的な授業計画と成績評価法などを明示するように求めている。ただし、シラバス等に示されていた学習目標と授業の整合性を学生に問うための、学部独自のアンケート調査等は現時点では実施されていない。</p>		シラバスに合致しない内容の授業や成績評価を行った教員への対応策が必要である。		シラバス等に示されていた学習目標と授業の整合性を学生に問うため、学部独自のアンケート調査等を実施する。	
<p>c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>シラバスと授業回数を含めた教育内容の整合性については、学科長を長とする教務課題検討委員会で検証している(資料4-3-11)。また、各専攻内において共通カリキュラムを設定し、専攻における到達目標を設定している。このほか、兼任講師を交えた教育懇談会でも注意を促している(資料4-3-12)。</p>					<p>資料4-3-11 教務課題検討委員会議事録 資料4-3-12 教育懇談会開催通知</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p><b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</b></p>							
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等。(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制)	シラバスに成績評価法の欄を設け、学生にその基準を明示し、教員がそれに従って成績評価をしている。成績基準については2004年度入学者から全学的にGPAが導入・統一され、Sは100～90点、Aは89～80点、Bは79～70点、Cは69～60点、Fが不合格で59点以下となった。成績評価や単位認定に対する疑義は事務室を介して実施している(資料4-3-13)。また、学生側で評価に対し疑義が生じた場合、事務室を通じて教員に照会することで対応している。					資料4-3-13 2013年度文学部便覧28-29頁「学業成績」
b	◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】	海外の大学に留学した場合、留学先で修得した30単位を限度に、それに近い文学部の授業科目に読み替え、単位を認定している。他大学からの編入生に対しても、それまで在籍した大学の単位を本学の単位として認め、不利益を被らないように努めている。					
<p><b>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか</b></p>							
a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	教育効果の検証と改善に関しては、それぞれの専攻が定期的に専任教員による教室会議を行って検討している。ただし、それが教授会審議に結びついているわけではない。このほか、4月に兼任講師をも交えた教育懇談会を実施して専攻を超えた授業改善をめぐる話し合いを行い、より優れた授業のあり方を目指している(資料4-3-12)。なお、2013年度より教授会の冒頭でFD研修会を実施した(資料4-3-14)。大部分の専攻は授業内容の相互参照等を行っておらず、個々の教員の自主的改善に委ねているが、教育の質の均質化については各専攻内で日常的に討議されている。たとえばフランス文学専攻では教科書選定会議を通じ、教育内容・方法の検討がなされている。新任教員に対しては全学的なFD関連の研修や講演会への参加を求めている。一部の専攻においてはゼミ幹事会を開催し、教育内容・教育方法の改善について学生間で問題点を討議させようとして、ゼミ幹事を招集して教員が意見聴取を行い、授業改善に役立っている。たとえば日本史学専攻では6月に3年「演習Ⅰ」と4年「卒業論文」のすべてのゼミの幹事を招集しているが、学生側の意見にもとづき、2013年度から「日本史概論AB」の担当を単独教員から専任教員全員によるオムニバス形式に改訂した。		全学部を通じた組織的対応が不足している。		学部内のFD委員会の答申にもとづき研修会を実施する。	資料4-3-12 文学部教育懇談会開催通知 資料4-3-14 FD研修会開催根拠資料
b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	全学のFD専門部会主導の授業アンケートの結果を教員個人が授業改善に取り入れ、学生アンケート結果のフィードバックをもとに個々の教員が授業改善を行っている(資料4-3-15)。留学生の意見や希望を聴取するため、毎年「留学生との懇談会」を開催している(資料4-3-16)。					資料4-3-15 2013年度FD委員会議事録 表4-14 授業改善アンケート実施状況 資料4-3-16 留学生との懇談会の開催について
c	●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	教育内容や方法の改善に関する対応は、専攻別ごとの教育内容の特徴を考慮し、問題点を十分に集約したうえで、カリキュラム検討委員会において審議し、2015年度実施のカリキュラム改訂に反映させる予定である(資料4-3-14、資料4-3-17)。					資料4-3-17 カリキュラム検討委員会議事録

## 第4章 教育内容・方法・成果 (4) 成果

点検・評価項目	現状の現状	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
a	●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	教育上の効果を測定する指標としてGPAを導入して合格最低点を60点、合格評定数を4としている。また卒業要件単位のすべてを対象としたGPAを成績表に記載することで、修得単位数のみならず学習の到達度を数値で示し、個々の学生の学習意欲向上に活用している。卒業論文については厳正な審査に加え、専攻別に『卒業論文要旨集』を作成して配布している(資料4-4-1)。卒業時の学生の質を検証・確保する方途として、卒業時にいたるまでの全在学生の履修率、GPA、卒業論文の評価、就職率、留年率等を調べ、次年度以降の卒業生の質、具体的には就職率の向上に全教員が指導・助言できるような体制が整うようになった。年次毎の学生の質の検証・確保に関しては、GPAによって成績の平均の追跡が容易になった。	成績基準がGPAの導入により厳格で有効な基準となり、学生が単位数の確保のみならず高い評価を目指すようになった。			資料4-4-1 2013年度文学部便覧28-29頁「学業成績」
b	●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約800字】	各専攻とも、1年次から設定された演習と卒業論文は必修となっている。演習は専攻の学問領域に応じて学年を経るごとに高度化され、4年次の卒業論文に連結されている。また、考古学専攻と地理学専攻はフィールドワークを含めた実習を設置し、卒業要件に含めている。学位授与率および卒業年限内卒業率は学部を通じてそれぞれ81.5%と80.7%である。卒業論文の審査は厳格に実施されている(資料4-4-2)。カリキュラムにおいて実習を重視する専攻においては、実習報告書の作成を必須としている。アジア史、ドイツ文学、フランス文学といった外国文化を専門とする専攻では、必修ではないが、海外でゼミ合宿を実施したり、協定校に留学生を派遣し、それらが卒論のテーマ策定に有効に機能している。卒業論文の概要は専攻ごとに『卒論要旨集』として冊子にまとめられ、卒業式に配布されるほか次年度の4年生にも配布されている(資料4-4-3)。文学部の学生は公務員や教員のほか学芸員、図書館司書や司書教諭、社会教育主事などをめざす者も多い。2012年3月の就職実績は教育・学習支援業の9.8%が特徴的だが、サービス業の16.1%を筆頭に公務員を含めた一般職への就職が普通となっており、業種に大きな偏りはない。総合的な教養力や語学力を効果的に活用し、実社会からの期待に応じているといえよう(資料4-4-4)。				資料4-4-2 3月4日教授会議事録 資料4-4-3 2012年度卒業論文要旨集 資料4-4-4 文学部ホームページ、文学部の就職状況 (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/employment/index.html)
c	●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】	学生の大学や授業に関する満足度について学部独自の調査は行っていない。また、卒業生に対するフォローアップのアンケートなども実施されていない。ただし、文学部における日常的な教育の場は専攻およびゼミに置かれており、ゼミ出身の卒業生との懇親会を開く教員は多く、臨床心理学は専攻単位で卒業生との会合を行っている。また、史学地理学科においては、駿台史学会大会後の懇親会を通じて卒業生との意見交換を行うなど、外部視点による教育成果の把握に努めている。		学部としては卒業生の声を集約する機会はないため、ゼミ単位で卒業生とさらに綿密に連絡を取るなどの対策が必要である。		

点検・評価項目	現状の現状	評価		発展計画		根拠資料	
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	<b>G列の点検項目について、必ず記述してください</b>					Alt+Enterで簡条書きに	
<b>(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか</b>							
a	◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	学位授与の要件については、全学生に配布する文学部便覧に、卒業に必要な単位を128単位以上修得した場合に「学士(文学)」を授与すると明示している(資料4-4-5)。また入学時の新入生ガイダンス及び毎年各学年に実施しているガイダンスにおいてもその都度、3年次進級の条件や卒業要件について十分な説明を行っている(資料4-4-6, 資料4-4-7)。学位授与に当たり、卒業要件の単位の充足と卒業論文提出が条件となっていることと、未完成の論文および指定提出時刻に遅れた論文は受理されないことが便覧に明記されている(資料4-4-8)。					資料4-4-5 2013年度文学部便覧16-19頁「卒業に必要な単位」 資料4-4-6 2013年度新入生総合ガイダンス資料 資料4-4-7 文学部ホームページ「2013年度文学部4年生履修説明会(動画配信)」 ( <a href="http://commons1.meiji.jp/em/5154133f0aefe">http://commons1.meiji.jp/em/5154133f0aefe</a> ) 資料4-4-8 2013年度文学部便覧19頁
b	●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	卒業論文の単位認定にあたっては、指導教員による厳格な指導や中間報告を経たうえで、各専攻内で面接が実施される(資料4-4-9)。そのうえで卒業要件の単位を修得した学生に対し教授会の承認により学位の授与がなされる(資料4-4-10)。多くの専攻では『卒業論文要旨集』が印刷物として作成され、卒業生および新4年生に配布されており、学位授与の適切性を公表している(資料4-4-3)。		卒業論文の提出率向上にむけ、指導教員のさらなる効果的指導が求められる。			資料4-4-9 卒論面接に関する掲示 資料4-4-10 2013年3月4日教授会議事録

## 第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点 に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
<b>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか（「AP」の全文記述は不要です）</b>							
<b>求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表</b>							
a	◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。【約400字】	本学部では入学者の受入方針を定め（資料5-1）、入学試験要項（資料5-2）、文学部HP（資料5-3）で公表しているが、2014年度からは『文学部ガイド2014』（資料5-4）にも掲載し、一層の周知を図っている。文学部のアドミッションポリシーは「人間そのものを普遍的かつ総合的に理解すること」を究極の目的に据え、「その目的を達成するため、十分な専門的知識を身につけた幅広い教養人の育成を教育方針」としたものである。また、文学部では専攻ごとに志願者を募集するため、当該専攻分野に対する明確な問題意識や目的意識、強い学習意欲を持つ志願者を求めている。このように入学後の専門性を考慮して、特に国語、外国語、地歴の3教科について、より高度な学習達成度を受験生に求めている。				資料5-1 2010年3月8日教授会議事録 資料5-2 2013年度入学試験要項 資料5-3 文学部HP (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/policy/03.htm) 資料5-4 『文学部ガイド2014』（2013年6月刊行）	
<b>障がいのある学生の受け入れ方針</b>							
b	●該当する事項があれば説明する【約200字】	障がいのある学生から受験の申し出があった場合、入学センターと連絡を取りつつ、受験の段階から個別の障がい特性に応じた配慮をしている。具体的には、学部事務室が当該学生から具体的な要望事項を直接、聴取し、これを教務主任及び役職者会で協議することにより、当該受験生に不利益が被らないよう最大限考慮し、本学の体制で可能な限り対応することとしている。					
<b>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか</b>							
a	●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか)【約400字】	本学部ではアドミッションポリシーに基づき多様な人材の確保を目的とし、次のとおり複数の入学形態および試験方法を持っている。①一般選抜入試（3科目型）、②全学部統一入試（3科目型）、③大学入試センター試験利用入試（3科目方式および5科目方式の前期日程、3科目方式の後期日程）、④自己推薦特別入試（第一次書類選考、第二次小論文・面接による二段階選考）、⑤社会人特別入試（小論文および面接）、⑥外国人留学生入試（第一次書類選考、第二次口頭試問による二段階選考）、⑦スポーツ特別入試（書類選考および面接）、⑧指定校推薦入学試験（書類選考と面接）、⑨付属高等学校推薦入試（面接）。すべての入学試験に関わる学生募集や選抜の方針は学部に常設された入試制度検討委員会で検討され（資料5-5）、学部教授会で審議・決定される（資料5-6）。特別入試は入試ごとに組織された入試実施委員会で管理され（資料5-7）、選考の趣旨や方法に関する試験担当者への周知、および特に面接における公平かつ適切な運営が確保されるよう徹底している（資料5-8）。試験当日には学部長、学科長、教務主任、事務長からなる入試本部を設営し、公正な実施と事故への対応に備えている。また科目ごとの出題委員会で内容を吟味し、出題の適切性を確保している。	9種類に及ぶ入試形態で学生募集を行い、多様性は十分に維持されている。2013年度入学試験で、一般入試以外の入試機会を経て入学した学生の比率は34%（入学者768人中265人）である。学力考査を課さない特別入試による入学者の入学後のGPAも、一般入試入学者のそれと比較しても見劣りするものではない（資料5-10）。	多岐に渡る入試形態毎に志願者の特性を見極め、専攻毎に各入試定員を政策的に検討する必要がある。また選考方法を変更した入試では志願者に混乱が生じないように万全を期す必要がある。		専攻別入試を導入した2011年度入試以降のデータ蓄積を継続し、受験動向および入学後の成績動向など追跡調査を行い検証していく。外国人留学生入試は2013年度入試より面接による口頭試問を二次試験として実施し、語学能力や専攻の学問領域への適性を把握したうえで合否判定することとした。修学に意欲的で優秀な外国人留学生確保を意図しているが、継続的に効果を検証していく。また二次面接試験の位置づけに関して誤解をしている受験生が見られたので、入試要項の記述を改善する（資料5-9）。	資料5-5 入試制度検討委員会議事録 資料5-6 文学部教授会記録（2012年度） 資料5-7 文学部各種委員会名簿 資料5-8 文学部特別入試等面接試験ガイドライン 資料5-9 留学生特別入学試験要項 資料5-10 文学部研修会資料入試形態別GPA

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点 に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p><b>C列の点検項目について、必ず記述してください</b></p>						
<b>(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</b>						
<b>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</b>						
a	<p>◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。また、学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。</p> <p>◎学部・学科における編入入学定員に対する編入学生数比率が1.00である(学士課程)。 【約200字】</p>	<p>本学部の過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均は1.10で、2013年度は0.99であった。また、2013年度の収容定員は4学年で3060名、在籍学生数は3453名で(2013年5月1日現在)、在籍学生比率は1.13である。在籍学生数に占める各学科の構成は文学科53%、史学地理学科35%、心理社会学科12%である。</p>				
<b>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</b>						
b	◎現状と対応状況【約200字】					
<b>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</b>						
a	<p>●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】</p>	<p>アドミッションポリシーは、その運用の適切性、入学試験との整合性について教授会で審議されることとなっている。合格者の決定に際しては、入試実施委員会、役職会、学部運営協議会の複数の段階で精査し、最終的に教授会において承認する体制を敷いている。2012年度は3月4日開催の教授会においてこれらを議論し、その適切性を確認した(資料5-11)。また入学試験の内容は常設の入試制度検討委員会および各年度の入試反省会の議論をもとに教授会で審議・決定されるが(資料5-5)、2014年度は帰国生特別入試を独立した入試形態から自己推薦特別入試の一部として実施する形態へと見直しを行った。各入試の内容がアドミッションポリシーに相応しい入学者となっているかは入試制度委員会を中心に検討を行っている。</p>				<p>資料5-11 2013年度3月4日開催教授会議事録 資料5-5 入試制度検討委員会議事録</p>

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料		
		【効果が上がっている点】 F列の現状から記述	【改善を要する点】 F列の現状から記述	【効果が上がっている点 に対する発展計画】 G列における伸張項目	【改善を要する点に対する発展計画】 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか</b>								
a	<p>●修学支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】</p>	<p>学生支援の目的は、良好な大学の教育研究環境そのものを確保するために、学生への修学支援および進路支援を充実させることである。そのために、文学部では以下のことを目標としている。①修学支援：留年や休退学を未然に防止し、留年や休学に至った学生には適切な指導を行うとともに、彼らが制度的不利益を被らないよう対処する。また、障がいのある学生が健常者に劣らない学生生活を送ることが可能となるよう支援する。学生が抱えるさまざまな問題に関しては、複数の相談先を作り、学生が孤立しないで問題の解決を図れるよう配慮する。②進路支援：学部教育とのバランスがとれた就職活動支援を行うために、就職・キャリア面での学生の意識向上を図るとともに、実際の就職活動を支援する。大学院等への進学希望者には正確な情報を与え指導を行う。</p>	<p>教授会で周知され、学生支援に関する方針を共有できている。</p>				<p>資料6-14 2012年度第7回教授会議事録 資料6-15 2012年度第12回教授会議事録</p>	
b	<p>●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】</p>	<p>①クラス担任制度をとっており、専任教員によってきめ細かな修学およびその他の支援が行われている。②1・2年生を主たる対象として、外国語や専門科目の講義内容の理解が十分でない学生、および修学に関するその他の疑問や不安を抱える学生に、学習支援室において学部助手およびTAが適切な指導と助言を行っている(資料6-1)。③スポーツ特別入試によって入学した学生用の必修外国語クラスを開講し、他学部にも所属する学生も含めて希望者が受講できるようにしている(資料6-2)。④留学生に対しては、「文学部外国人留学生特別支援」としてチューター制度を設け、学部生及び大学院生により個別の課外支援を行い、留学生の学習・研究成果の向上及び環境への適応を図っている(資料6-3、資料6-4)。⑤卒業要件単位の不足単位数が20単位以下の留年生には9月卒業が認められている。また、通常16単位以下である再履修単位数を超える再履修を例外的に認めている。⑥退学理由の把握については退学届を受理する際に可能な範囲で事務職員が事情を聴取し、必要があれば役職者や教授会に報告している。また不登校学生には、授業等を通して当該学生の出席状況を把握しているクラス担任等教員からの要請により、事務職員が掲示や電話による呼び出しなど積極的にコンタクトを試み、場合によって教員も直接対応している。⑦障がいをもつ学生に対しては、障がいに応じた支援体制を所属専攻教員・学生および学部事務室の協力を得て作っている。⑧特別入試合格者(付属校・自己推薦・社会人・帰国生・編入学試験)全員を対象に、英文入学読解の入学前教育を実施している(資料6-1)。⑨1・2年の希望者に対して語学検定試験の受験料助成を行っている。TOEICについては1年生のみ全額補助で1年生の8割ほどが受験し、その他の試験は2000円の補助で、1・2年合計で100名程度が受験している(資料6-5)。⑩学生間の交流を計るために、学生が主体となって運営する文学部スポーツ大会を実施している。この文学部スポーツ大会は、教授会報告事項として学部教員に周知している。実施にあたっては文学部職員がサポートし、運営費を援助している(資料6-8)。</p>	<p>いずれの項目においても、大きく数字を増やしているわけではないことから、大きな問題となることのないように、未然防止としての一定の効果が得られている。</p>				<p>資料6-1 2012年度明治大学学習支援報告書(学習支援推進委員会) 資料6-2 2012年度スポーツ入学者対象語学シラバス(学習支援推進委員会) 資料6-3 文学部外国人留学生特別支援実施要項 資料6-4 ライティングチューター募集要項 資料6-5 文学部TOEIC IPテスト申込書 資料6-6 文学部キャンパスハラスメント研修に関する内規 資料6-7 2012年度第14回会議要領 資料6-8 2012年度第6回教授会議事録</p>	
<b>(2) 学生の進路支援は適切に行われているか</b>								
	<p>◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】</p>	<p>文学部独自の取り組みとして、1～3年生を対象に「進路選択支援講座」を年間6回開催している。駿河台キャンパスでは3年生を対象として前期に4回開講し、第1回は本学就職キャリア支援事務室職員による「採用の現場を見てみようーエントリーシートと面接」、第2回は㈱マイナビ社員による「就職ガイダンスー外から見た明治大学文学部学生の強みと弱み」、第3回は一般企業に就職した本学部卒業生による「体験談とアドバイス」、第4回は資格・課程を活かして就職した本学部卒業生による「体験談とアドバイス」というテーマで、参加者は平均50名程度である。和泉キャンパスでは1・2年生を対象として後期に2回開講し、第1回は本学部教員による「文学部での学びとキャリアデザイン」、第2回は本学就職キャリア支援事務室職員による「大学生活を考えるー今と就活と卒業後のビジョン」というテーマで、参加者は平均30名程度であった(資料6-9、資料6-10)。大学院進学に関しては専攻ならびに専攻教員によって必要に応じて個別のガイダンスが行われているが、授業等を通じ「明治大学大学院研究科合同進学相談会」についても学生に周知している(資料6-11)。また、インターンシップについては、2013年度より単位が認定されることとなった(資料6-12)。さらに、将来の進路に対しての基礎的科目として「キャリアデザイン」といった科目等の設置を、文学部カリキュラム検討委員会で検討している(資料6-13)。</p>		<p>2012年度に「進路選択支援講座」を受講した学生数は和泉開催講座で平均30名、駿河台開催講座で平均50名程度にとどまった。この4年間でも、在籍学生数からすると参加者数は少ないので、より多くの参加者が集まるような手立てを考えていく必要がある。</p>		<p>「進路選択支援講座」の充実を図るとともに、講座開催の周知徹底およびより多くの学生が受講しやすい環境作りを策定する。</p>	<p>カリキュラムに、将来の進路選択に関する基礎的科目として「キャリアデザイン」といった科目等の設置をカリキュラム検討委員会で検討している(資料6-13)。</p>	<p>資料6-9 2012年度文学部「進路選択支援講座」案内パンフレット (<a href="http://www.meiji.ac.jp/bu/ngaku/info/2012/6t5h7p00000cb6w2-att/6t5h7p00000cb6wj.pdf">http://www.meiji.ac.jp/bu/ngaku/info/2012/6t5h7p00000cb6w2-att/6t5h7p00000cb6wj.pdf</a>) 資料6-10 2012年度文学部「進路選択支援講座」 (<a href="http://www.meiji.ac.jp/bu/ngaku/info/2012/6t5h7p00000dwmqu.html">http://www.meiji.ac.jp/bu/ngaku/info/2012/6t5h7p00000dwmqu.html</a>) 資料6-11 2013年度「明治大学大学院研究科合同進学相談会」実施要項 (<a href="http://www.meiji.ac.jp/humanity/exam/6t5h7p000000ffx4-att/6t5h7p00000b1bqy.pdf">http://www.meiji.ac.jp/humanity/exam/6t5h7p000000ffx4-att/6t5h7p00000b1bqy.pdf</a>) 資料6-12 2011年度第10回教授会議事録 資料6-13 2012年度文学部カリキュラム検討委員会議事録</p>

## 第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	効果が上がっている点 に対する発展計画 G列における伸張項目	改善を要する点に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>							
a	◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】	本学部における自己点検・評価は、学部内に設置された文学部自己点検・評価委員会によって行われている。本委員会は教務主任や学生部員の経験者を中心に全7名で構成している(資料10-1)。2012年度は年3回委員会を開催し(2012年5月7日, 6月5日, 10月16日), 「2012年度文学部自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書の内容は学部役職会(2012年6月25日)で了承されたのち, 文学部研修会(2012年8月27日)ならびに教授会(2013年3月14日)の席上で報告・承認され, その後全学の手続きを経て, ホームページで公開している(資料10-2)。なお, 2013年度より委員会の構成を, 現状の問題を熟知し, かつ評価結果を学部教育の改善に活かすべく, 入試制度検討委員会, 教務課題検討委員会, 人事計画委員会, 国際交流委員会など主要な学部内専門委員会の責任者を委員に含むように改善された(資料10-3)。		報告書の作成は主に内部資料に基づいて行われるにとどまり, 学生の実態を把握するためのアンケート調査などの活用が不十分である。		FD委員会において, 学生に対するアンケート調査の実施について, 2015年度の実施を目途に検討していくこととする。	資料10-1 自己点検・評価委員会委員名簿 資料10-2 大学ホームページでの公表の状況(2011年度点検・評価報告書) <a href="http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/index.html">http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/index.html</a> 資料10-3 2013年度第1回委員会議事録
<b>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</b>							
a	●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字~1000字程度】	本学部の内部質保証の基本方針は, 自己点検・評価委員会を責任主体とし, 同委員会は評価結果及び改善方策を学部長に報告するものとしている。報告書を受け取った学部長は, 学部内各種委員会に審議依頼し, 改善の具体化を促している。その後の改善状況は各種委員会から, 学部執行部および教授会に報告され, 進捗状況を点検する体制がとられている。なお2013年より, 年度計画の策定と同調させるため, 自己点検・評価報告書の中間報告を学部長を交えて行うこととした(資料10-4)。2012年度に評価結果を受けて学部長が学部内の各種委員会に審議依頼した事項は「教員の任用及び昇格審査基準の制定」「授業科目の半期化」「特別入試の改革」の3点である(資料10-5)。また, 過年度の評価結果を受け, 中長期的な課題として「学科専攻制の再検討」及び「カリキュラムの改訂と語学教育の充実」について, それぞれ将来構想委員会(2011年度発足)及びカリキュラム検討委員会(2012年度発足)を立ち上げて検討を行っている。さらに, 前回認証評価時(2007年度)の助言・指摘において国際交流の不足を指摘されたが, 2010年度に常設の「国際交流委員会」を設置し, 着実に実績をあげている。また, それ以前から個人ベース, 研究組織ベースで行われてきた教員の国際交流の成果はホームページで発信している。	①国際交流委員会は, これまでに海外3大学との学部間協定を締結したほか, 海外大学との教育・研究交流, 外国人留学生との交流会(昼食会)の開催, 外国人留学生特別支援チューターの設置, 海外ゼミ合宿の支援などを政策的経費により行っている。②社会貢献の一環として, 高校生及び社会人を対象とした「明治大学文学部読書感想文コンクール」を2010年度より政策的経費により実施している。	①自己点検・評価の作業を見据えて, 継続的に資料を蓄積・整理していく必要がある。 ②外部の視点を取り入れる取り組みが欠けている。		自己点検・評価活動の意義を多くの教職員に理解してもらうための工夫・啓発活動, およびより多様な視点を交えた自己点検・評価のあり方を2015年度を目途に検討していくこととする。	資料10-4 FD委員会議事録資料10-5 2012年度学部長審議依頼事項